

# 中小企業・小規模企業の振興 に関する報告書

令和7年2月19日

白河市中小企業・小規模企業振興会議

## 中小企業・小規模企業の振興に関する報告

中小企業者・小規模企業者は、市内事業者の大多数を占めており、地域に根差した事業活動を通じ、当市の経済発展と市民生活の向上に大きく寄与して参りました。

しかし近年、コロナ禍や物価高騰などによる不安定な経済状況、少子高齢化や若年層の人口流出、さらに急速な社会的変化への対応など中小企業・小規模企業を取り巻く環境は厳しいものであります。

特に、労働人口の減少は、地域経済の停滞を招くだけでなく、事業者の存続にかかわる喫緊の課題であり、早急な対策を講じる必要があります。

このような中で、私ども「中小企業・小規模企業振興会議」では、未来の白河市を担う人材確保のためには、若年層に対して、勤労及び職業に対する意識の啓発を行うとともに、市内中小企業者等を知る機会の創出等による地域に対する誇りや愛着を醸成するための取り組みを推進することが重要であると考え、協議を重ねて参りました。

その内容を取りまとめた本報告書を提出いたしますので、施策の実現へ向けて、積極的にご検討くださいますようお願い申し上げます。

白河市中心企業・小規模企業振興会議 会長 藤田 龍文

## 目次

|          |   |           |
|----------|---|-----------|
| <b>1</b> | <b>市内中小企業等の課題</b> . . . . .             | <b>1</b>  |
|          | (1) 経過 . . . . .                        | 1         |
|          | (2) 課題の検討 . . . . .                     | 1         |
|          | (3) 方針 . . . . .                        | 1         |
| <b>2</b> | <b>現行の職場体験とその課題</b> . . . . .           | <b>2</b>  |
|          | 職場体験の意義 . . . . .                       | 2         |
|          | 本市の現状 . . . . .                         | 2         |
|          | (1) 各校の実態 . . . . .                     | 2         |
|          | (2) 委員による視察 . . . . .                   | 4         |
|          | (3) アンケート調査 . . . . .                   | 5         |
|          | 現行の職場体験の課題 . . . . .                    | 6         |
| <b>3</b> | <b>しらかわ版職場体験について</b> . . . . .          | <b>7</b>  |
|          | 職場体験受入企業リストの作成 . . . . .                | 7         |
|          | オリエンテーション授業 . . . . .                   | 11        |
|          | 課題解決型の職場体験 . . . . .                    | 13        |
|          | <b>白河市中小企業・小規模企業振興会議 委員名簿</b> . . . . . | <b>15</b> |

## 1 市内中小企業等の課題

### (1) 経過

第2期白河市中小企業・小規模企業振興会議（以下、「振興会議」という）では、第1期振興会議（令和2年4月1日～令和4年3月31日）にて報告した市内中小企業等の課題のうち、「人材の確保・育成支援」に焦点を絞り、議論をおこなった。

特に、市内中小企業等にとって、**若年層の人材確保**が大きな課題となっていることから、高校生以下、とりわけ小中学生へのアプローチが必要であるとの意見で一致した。

### (2) 課題の検討

当市の現状として、大学等への進学をきっかけに若年層が市外へ流出し、そのまま市外で就職してしまう傾向が強く、市内中小企業は若年層の人材確保に苦慮している。

若年層が市内中小企業に就職しない理由として、若年層への認知度不足が一因として挙げられる。

そこで、本振興会議では、小中学生のうちから地元企業の魅力を知ってもらい、地域の人々と関わることで郷土愛を醸成することが、将来子どもたちが白河で働きたいと思うきっかけとなると考える。

### (3) 方針

本振興会議では、若年層に地元の中小企業を知ってもらい、その魅力を伝えるための方策として、**中学生の職場体験**に着眼した。中学生の職場体験は、高校生や大学生等の就職を目的とした活動とは異なり、教育的な側面が強く、地元の企業を知り、郷土愛を醸成する機会としては最適である。しかし、現状の職場体験は、「地元の企業を知る」という点においては改善の余地があり、中学生が地元企業を知る機会が失われてしまっていると言える。

そのため本振興会議では、現状の職場体験の課題を整理し、中小企業等だけでなく、学校や中学生にとってもより意義のある活動とすべく、検討をおこなった。

## 2 現行の職場体験とその課題

中学生の職場体験について検討するにあたり、現行の職場体験について理解を深め、その課題の整理をおこなった。

### 職場体験の意義

「中学校職場体験ガイド」（文部科学省, 2005 年）では、職場体験の教育的意義として、次の8つを掲げている。

- ① 勤労観、職業観の育成の場
- ② 新たな自分を発見する場
- ③ コミュニケーション能力、社会的スキル、人間関係の大切さを体得する場
- ④ 学校と社会をつなぐ場
- ⑤ 職業生活や社会生活に必要な知識、技術・技能を学ぶ場
- ⑥ 教員の新たな資質・能力の形成の場
- ⑦ 親子の会話を促進する場
- ⑧ 事業所、地域の理解と活性化を図る場

本振興会議では、中小企業等の振興という観点から「⑧事業所、地域の理解と活性化を図る場」に着目し、職場体験を通じて、地域の産業やそこで働く人々の素晴らしさや大切さを発見する機会を創出し、若年層が地元に対する愛着（郷土愛）や誇りを持つことに繋げることを念頭に置き、議論をおこなった。

### 本市の現状

本市中学校の職場体験の現状を把握するため、各校への照会および委員による視察、教員・市内中小企業者を対象とするアンケート調査を実施した。

#### （1）各校の実態

令和5年度に実施した各校への文書照会に回答のあった市内中学校5校（白河中央中、白河二中、白河南中、表郷中、大信中）の実施状況は以下のとおり。

##### 【実施対象学年】

- ・ 回答のあったすべての中学校で「第2学年」を対象としている。

##### 【実施時期】

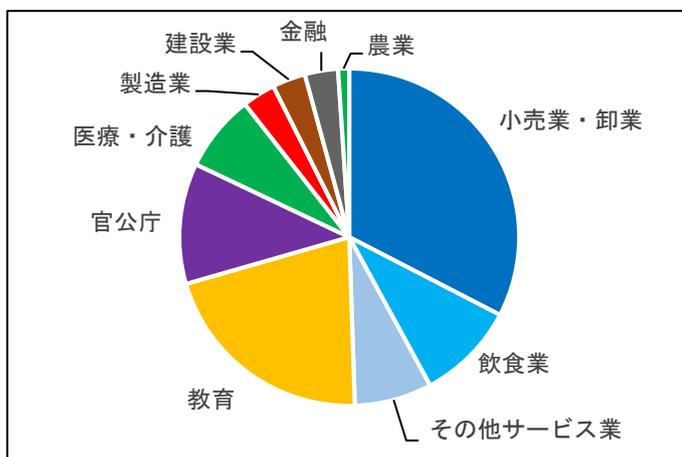
- ・ 4月～6月：1校（大信中 ※令和6年度は7月に実施）
- ・ 7月～9月：4校（白河中央中、白河二中、白河南中、表郷中）

### 【職場体験先】

令和5年度に実施された職場体験の体験先は以下のとおり。

#### 【業種別職場体験先】（全体）

|            |       |
|------------|-------|
| ■ 小売業・卸業   | 32.6% |
| ■ 飲食業      | 9.5%  |
| ■ その他サービス業 | 7.4%  |
| ■ 教育機関     | 21.1% |
| ■ 官公庁      | 11.6% |
| ■ 医療・介護    | 7.4%  |
| ■ 製造業      | 3.2%  |
| ■ 建設業      | 3.2%  |
| ■ 金融機関     | 3.2%  |
| ■ 農業       | 1.1%  |

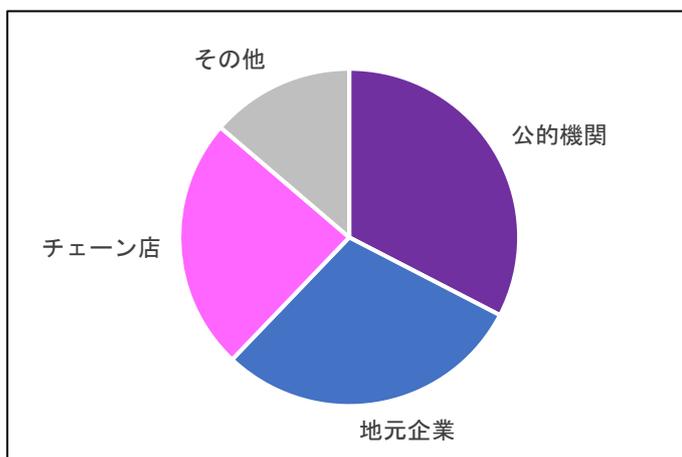


(図1：業種別職場体験先)

職場体験先として「小売業・卸業」や「飲食業」、「その他サービス業」といった、いわゆる接客業が約5割を占めている一方で、「製造業」や「建設業」、「農業」はわずかであり、職場体験先として、業種の偏りが大きいと言える。

#### 【形態別職場体験先】（全体）

|         |       |
|---------|-------|
| ■ 公的機関  | 32.6% |
| ■ 地元企業  | 29.5% |
| ■ チェーン店 | 24.2% |
| ■ その他   | 13.7% |



(図2：形態別職場体験先)

職場体験先として、官公庁や教育機関、消防・警察等の「公的機関」が約3分の1を占めている。民間では、地元企業とチェーン店の割合がほぼ同じである。

※「チェーン店」は、市外にも複数の店舗・事業所があるものとして分類。

※「その他」には、医療機関や介護施設、金融機関等を含む。

## (2) 委員による視察

令和6年度に実施された、市内中学校2校（白河南中、大信中）の職場体験の様子を各委員が視察し、受入企業の担当者や生徒への聞き取りを実施した。

受入企業の担当者からは、地域貢献や業界の発展のために受け入れしており、「生徒らが楽しんで体験してくれて嬉しい」という声が聞かれた一方、特に小規模企業者からは、受け入れ中は仕事が滞ってしまうため負担が大きいとの意見もあった。

さらに、学校と事業所との連携が薄く、生徒にどのような体験をさせたら良いかわからないとの不安の声も聞かれた。

また、職場体験中の生徒に話を聞いたところ、自分の興味のある業種が体験先に無かったため、別の業種を選んだという声が多く聞かれた。もちろん、自分の興味関心に適した体験先を選んだ生徒もいたが、職場体験に取り組む熱量は生徒によって大きな差があると感じられた。

### 【職場体験の様子】



(こちや自動車工業株式会社)



(白河市立図書館)

### 【視察の様子】



(フラワーショップいくた)



(ベシシア白河モール店)

### (3) アンケート調査 (各アンケートの集計結果は別紙のとおり)

#### ○市内中小企業者を対象としたアンケートの調査結果

職場体験の受け入れに関する実態や意識を調査するため、白河商工会議所及び(一社)産業サポート白河の協力のもと、市内中小企業者へのアンケート調査を実施した。

回答者のうち、これまで中学生の職場体験を受け入れたことがあると答えたのが全体の36.8%で、そのうち約9割が「地域貢献のため」に受け入れをしているとした。

一方、これまで受け入れしたことのない中小企業者は、その理由として「学校からの申し入れがなかったため」や「安全性や個人情報保護などの観点から職場体験に適した業務内容ではないため」との回答が多かった。

また、今後について、全体の5割が職場体験を受け入れたい意向を示し、残りの約3割も受け入れる余地を残していることから、受入先企業の拡充の可能性は十分にあると判断できる。

#### ○市内中学校の教員を対象としたアンケートの調査結果

職場体験にかかる教員の負担や実態を調査するため、市内中学校の教員へのアンケート調査を実施した。

まず、職場体験に関する事務で負担が大きいものとして、全体の約9割が許可取りや新規開拓などの「事業所とのやりとり」を挙げた。

また、行政の協力が必要な点として、学校と事業所との間に行政が入ってもらい、事業所への許可取りや受入可能な企業のリストなどを提供してほしいとの要望があった。

## 現行の職場体験の課題

上記の現状把握を経て、本振興会議として、現行の職場体験の課題として次のとおり整理をおこなった。

- 職場体験先の業種に偏りがあり、地元企業の割合が少ないため、中学生が地元の企業を知る機会が失われている。
- 事業所への職場体験の許可取りや調整にかかる教員の負担が大きく、職場体験先の新規開拓ができなかったり、事業所との連携が薄くなってしまったりしている。
- 事業所に、生徒がどのような体験を希望しているか伝わりにくく、生徒が体験する内容は事業所に一任されているなど、事業者（特に小規模企業）の負担が大きい。
- 生徒によって、職場体験への取り組み方や目的意識に差が出てしまっている。
- 生徒と事業所とのコミュニケーションが不足し、ミスマッチを生んでしまう。

### 3 しらかわ版職場体験について

本振興会議では、現行の職場体験の課題を改善し、市内中小企業・小規模企業の振興を図るための新たな取り組みを「しらかわ版職場体験」と題し、議論してきた。

市内の中学生が地元企業の魅力を感じ、そこで働く人とのコミュニケーションを通じて郷土愛が醸成され、将来白河で働きたいと思えるような職場体験となることを目指し、次の3つの取り組みの実施について、検討いただきたい。

#### 1 職場体験受入企業リストの作成

#### 2 オリエンテーション授業

#### 3 課題解決型の職場体験

### 職場体験受入企業リストの作成

#### 現状

##### ▶ 職場体験先の業種などに偏りがある（選択肢が少ない）

職場体験先の約半数がサービス業（小売業や飲食業など）となっており、製造業や建設業、農業などが職場体験先として選ばれることは少ない（図1）。

##### ▶ 中学生が地元企業を知る機会が失われてしまっている

職場体験先の事業所を形態別に見ると、地元企業（個人事業主含む）は、全体の約3割に留まっており、チェーン店が選ばれることも多い。（図2）。

また、新たな職場体験先を検討する際には、主に教員が知っている事業所に限られるため、地元の中小企業や個人事業主が選ばれる機会が少なく、中学生が地元企業を知る機会が失われてしまっている。

▶ **職場体験先の選定や事業所への連絡にかかる教員の負担が大きい**

職場体験先の事業所は、生徒が希望する職種に応じ、教員が選定する。教員は候補の事業所へ連絡し、職場体験受け入れの許諾を得ているが、連絡した事業所の半数に断られることもあり、大きな負担となっている。

本会議が市内中学校の教員を対象に実施したアンケート調査（別紙）では、事業所への許可取りの事務負担が大きいと回答した人の割合が約9割、事業所の新規開拓が約7割との結果が得られた。

**提言**

**職場体験受入企業リストの作成**

▶ **職場体験の受け入れが可能な企業リストを集約・公開する**

市や中小企業団体（白河商工会議所や商工会、産業サポート白河など）が連携して職場体験の受け入れが可能な企業を募り、市が集約、リスト化して公開する。

リストはウェブサイト上で公開し、教員や中学生だけでなく、一般の人もいつでも閲覧できるようにする。

▶ **職場体験の趣旨や概要等の事前共有**

職場体験受入企業としてリストに登録する際、「事業所用マニュアル」により事前に趣旨や一連の流れ等の概要を理解してもらう。それにより、学校が趣旨説明する負担を軽減し、また、事業所と学校との認識のズレを少なくすることができる。

イメージ図

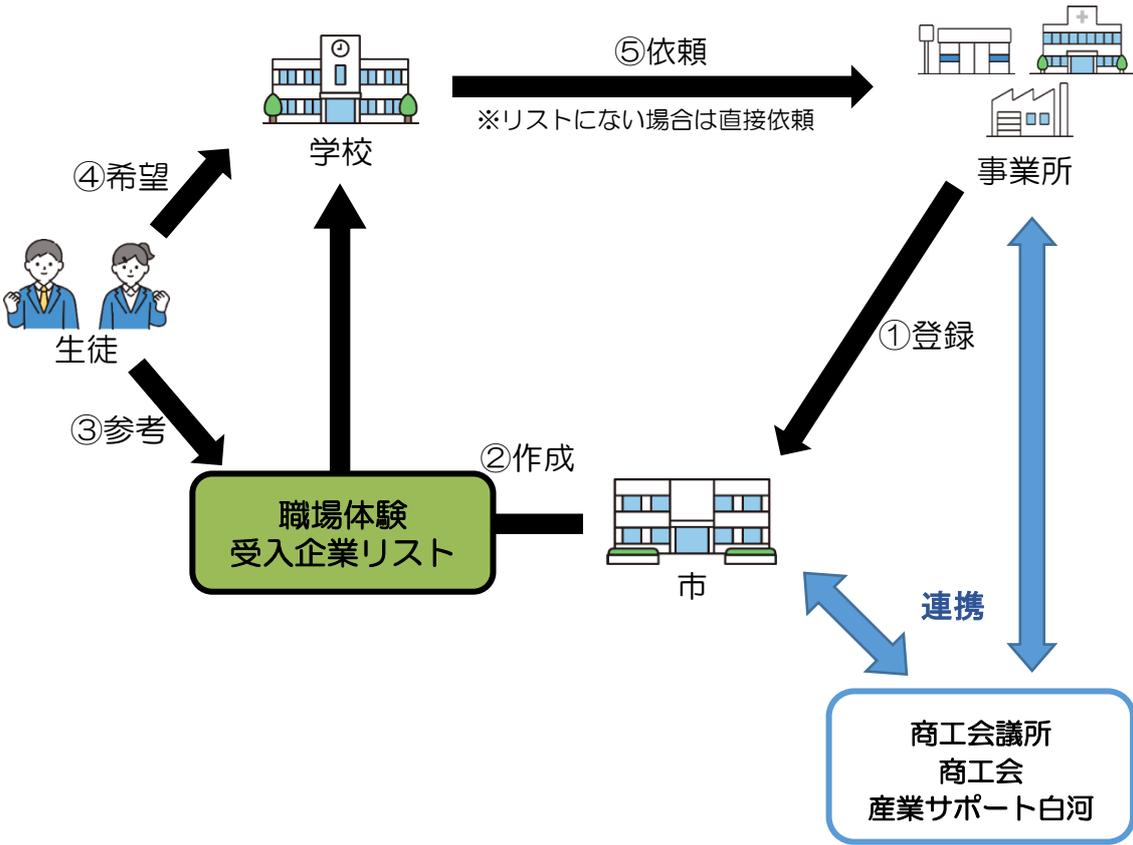
現状

学校が事業所へ直接依頼するため、断られることが多い



提言

事業所が受入登録するため、学校が依頼する際に断られる可能性が低い



## 効果

### ▶生徒が地元企業を知るきっかけになる

職場体験を通じて、地元企業がどういった仕事をしているのか知ることができる。地元企業を理解することは、郷土愛の醸成に寄与し、将来的に市内での就職につながることも期待できる。

また、実際に職場体験しなかったとしても、職場体験受入リストを閲覧することで、どのような企業があるのか知るきっかけになる。

### ▶教員の事務負担の軽減

教員の大きな負担となっている職場体験先の選定や事業所との調整にかかる事務負担が軽減できる。特に、事業所が自ら受入登録するため、教員が許諾を得る際に断られるリスクが少なく、職場体験の趣旨説明も省くことができる。

### ▶生徒の希望に沿った職場体験先を選ぶことができる

これまでは限られた候補先の中から選ぶため、本人の希望する体験先に行けないこともあったが、候補を増やすことで、より生徒の希望に沿った職場体験先を選ぶことができる。

### ▶事業所と地域のつながりを創出、イメージアップにつながる

職場体験の受け入れをすることで、事業所と地域のつながりを創出することができる。また、職場体験受入リストが公開されることで、地域貢献をしていることをアピールでき、事業所のイメージアップをすることができる。

## オリエンテーション授業

### 現状

#### ▶生徒と事業所のミスマッチ

生徒が職場体験先を選ぶ際、事業所に関する情報が少なく、知名度やイメージで決めている傾向が見られる。

また、職場体験先でどのような体験をするかは、当日になってみないと分からないことが多く、生徒が期待していた体験ができないといったミスマッチが生じる可能性がある。

#### ▶生徒と事業所のコミュニケーション不足

職場体験当日まで生徒と事業所が顔を合わせる機会がなく、事業所としてはどのような生徒がどのような体験をしたいのか分からないといった声が聞かれた。

また、生徒としても初対面のため積極性が欠けてしまう懸念もある。

### 提言

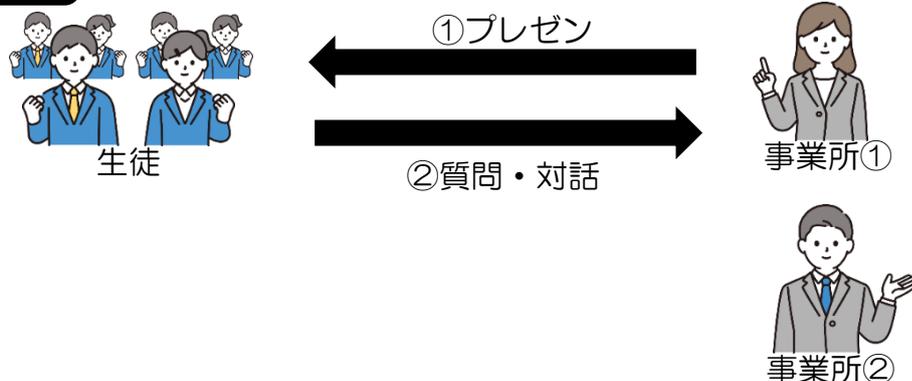
#### ▶職場体験先を決める前に、生徒と事業所のマッチングを行う

職場体験前に、生徒が事業所の方の話を直接聞く機会を設け、ミスマッチを少なくする。

候補先の事業所が生徒へプレゼンテーションを行うことで、その存在や業務内容を知ってもらうことができ、生徒が元々興味のない事業所の話も聞くことで、選択の幅を広げるきっかけになることが期待できる。

一方、小規模企業（特に個人事業主）にとっては、授業に参加することが負担になることが考えられるため、授業に参加できない事業所は、PRペーパーや紹介動画を提供してもらうことで、機会の創出を図る。

### イメージ図



**効果****▶生徒と事業所とのミスマッチを少なくすることができる**

職場体験先を決める前に、生徒が事業所の話を聞く機会を設けることによって、イメージの違いによるミスマッチを防ぐことができる。

ミスマッチを防ぐことによって、生徒の職場体験に対する主体性を高め、事業所にとってもより関心の高い生徒へ職場体験する機会を提供できるようになる。

**▶生徒の選択の幅や可能性を広げることができる**

従来の場合、事業所の話を聞くことができるのは1か所に限られるが、本案では、複数の事業所の話を聞いてから職場体験先を決めることができるため、本来希望していた職種以外にも興味が沸いたり、希望する職種がない生徒が新たな可能性を発見したりするきっかけになることが期待できる。

**▶事業所が若年層へ情報発信できる機会となる**

事業所にとって若年層（特に中学生）へ情報発信ができる機会は貴重であり、そこで業務内容を紹介することは、未来への投資となり得る。特に若年層の雇用に悩む事業所にとっては、中学生の率直な意見を聞ける機会ともなるため、両者にとってメリットがある。

## 課題解決型の職場体験

### 現状

#### ▶ 体験内容が簡単な内容になってしまうことが多い

業種によっては、中学生に実際の業務を体験させることができず、簡単な雑務や単に職場「見学」だけに終始してしまうことがある。

#### ▶ 職場体験の目的が事業所に伝わらず、体験内容も一任されている

事業所が職場体験の受け入れを受諾した後、学校側から職場体験に関する説明や打ち合わせがないまま職場体験当日を迎えてしまうことが多い。そのため、体験内容は事業所に一任されており、体験させていることが職場体験の趣旨に合っているか不安に感じる声も聞かれた。

### 提言

#### ▶ 事業所から生徒に対して「ミッション」を与える

職場体験を始める前に、生徒に対して「ミッション」を与え、生徒は「ミッション」の解決策を考えながら、職場体験に取り組む。

事業所が、業種に応じた「ミッション」を設定することで、中学生が直接仕事を体験できない業種だとしても、目的意識を持って見学することで、仕事への意識が高まる。

#### ▶ ミッションの例を事業所へ提示する

前述の「事業所用マニュアル」にてミッションの例を提示し、受入事業所として登録してもらう際に、一定程度考えてもらう。ミッションの例としては以下のようなものが考えられる。(参考：新潟県佐渡市)

##### ・ 人に対するミッション

プロとして人と関わる、ケアする視点を学びながら、相手がよりよくなるようなプログラムを考える。

##### ・ ものづくりミッション

中学生らしい発想で新しいものをつくる。

##### ・ 企画系ミッション

良さを理解して、付加価値や新しいアイデアを生み出す。

##### ・ 発信系ミッション

認知度を向上させ、魅力を知ってもらうために、発信する。

#### ▶ 職場体験後に、事業所へ向けた発表会を行う

事後学習として、事業所から与えられたミッションの解決策や体験で感じたことなどをまとめ、事業所の方へ発表する。

事業所は、生徒へフィードバックを行い、生徒の提案を前向きに検討。

**効果****▶ 「仕事の大変さ」だけでなく「仕事の面白さ」を学ぶ機会になる**

仕事の中で与えられたミッションの解決策を考えるという実体験は、「仕事の大変さ」を感じるだけでなく、「仕事の面白さ」や「働くことの醍醐味」を学ぶ機会となる。

**▶ 生徒がより主体的に職場体験に取り組むことができる**

従来の場合、生徒が受動的に体験することが多いが、ミッション解決という目的意識を持って取り組むことで、生徒がより主体的に職場体験に取り組むことができるようになる。

また、事業所としても、ミッションを与えることで体験させる内容も、ミッションに関連したものとして考えやすくなり、さらに、業務の醍醐味を伝えやすくなる効果がある。

## 白河市中小企業・小規模企業振興会議 委員名簿

(任期：令和5年3月24日～令和7年3月23日)

(敬称略 令和7年2月19日現在)

|       |        |                        |
|-------|--------|------------------------|
| 会 長   | 藤田 龍文  | 株式会社 楽市白河 代表取締役        |
| 副 会 長 | 増子 国安  | 福島県中小企業家同友会 白河支部 副支部長  |
| 委 員   | 大越 正弘  | 福島大学 地域未来デザインセンター 特任教授 |
| 委 員   | 菊地 広幸  | 東邦銀行 白河支店 支店長          |
| 委 員   | 宇埜 康平  | 日本政策金融公庫 郡山支店 支店長      |
| 委 員   | 武田 美奈子 | 株式会社 武田産業 代表取締役        |
| 委 員   | 吉島 祐輔  | 大島蒟蒻店 代表取締役            |
| 委 員   | 井上 竜一  | ジョルダン株式会社 白河支店 支店長     |
| 委 員   | 和知 健明  | ダルライザープランニング 代表        |
| 委 員   | 阿部 涼   | あべ果樹園 代表               |
| 委 員   | 山口 和真  | 有限会社 山口こうじ店 専務         |
| 委 員   | 大竹 洸成  | 白河商工会議所 経営指導員          |
| 委 員   | 佐川 盟子  | 一般社団法人 産業サポート白河 相談員    |

### 【異動等により退任された委員】

|     |      |                   |
|-----|------|-------------------|
| 委 員 | 福島 勲 | 日本政策金融公庫 郡山支店 支店長 |
|-----|------|-------------------|

### 【アドバイザー】

|   |       |               |
|---|-------|---------------|
| — | 上野 康生 | 白河市教育委員会学校教育課 |
|---|-------|---------------|

### 【事務局】

白河市産業部商工課